

# 手探り状態からの脱出

---



2017年度第1回機関リポジトリ新任担当者研修  
東洋大学図書館事務部図書事務課  
後藤明日香

JPCOAR オープンアクセスリポジトリ推進協会  
研修作業部会

# 本日の概要

---

- 東洋大学および附属図書館のご紹介
- 東洋大学学術情報リポジトリのご紹介
- 本日の事例報告で取り上げる内容
- 今後の展望

# 東洋大学のご紹介

## 概要

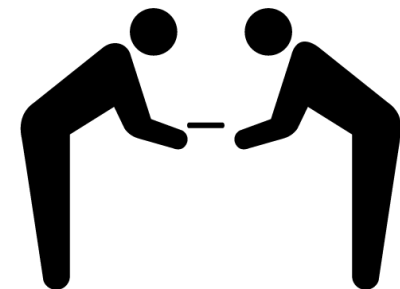
学部	13学部	夜間学部あり
大学院	13研究科	
学生数	約30,000人	
専任教員数	約700人	
キャンパス	5キャンパス	白山・朝霞・川越 板倉・赤羽台

東京・埼玉・群馬

## 学祖・建学の理念・沿革

学祖	井上円了	キーワードは「哲学」「妖怪」
建学の理念	「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」 「知徳兼全」	
ざっくり沿革	1887年	哲学館を創立する
	1906年	私立東洋大学と改称する
	2012年	開学125周年
	2017年	開学130周年

よろしくお願ひします。



# 東洋大学附属図書館のご紹介



## 開館カレンダー > 詳細はこちら

白山	川越	朝霧	板倉				
2017年06月							
			08:30-20:00				
			08:30-22:00				
			09:00-17:00				
			10:00-18:00				
			休館				
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30		

※開館日・時間はキャンパスにより異なります。  
各キャンパスをクリックして確認してください。

開館時間が長い  
土日も開館している



# 東洋大学学術情報リポジリのご紹介

東洋大学学術情報リポジリ  
Toyo University Repository for Academic Resources

お知らせ  
2013.11.07 掲載雑誌一覧のページを公開しました。  
2012.10.15 CINI, JAIROでも検索されるようになりました。  
2012.10.04 正式公開いたしました。

コンテンツの著作権について  
本リポジリに登録されているコンテンツの著作権は、執筆者、出版社（学協会）などが有します。  
本リポジリに登録されているコンテンツの利用については、著作権法に規定されている私的利用や引用などの範囲内で行ってください。著作権に規定されている私的利用や引用などの範囲を超える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。ただし、著作権者から著作権等管理事業者に権利委託されているコンテンツの利用手続については各著作権等管理事業者に確認してください。

WEKO  
トップ ランキング

検索

Language  
日本語

索引期間: 2017-03-25 - 2017-04-24  
最もダウンロードされたアイテム

1502 Towards the enhancement of resilience in a Disaster Management context: The contribution of the Student Volunteer Army to community reconstruction in the aftermath of the Christchurch Earthquakes of 2010 and 2011 (toyohogaku60-1\_63(288)-87(264).pdf)

952 急性期病棟における看護師の身体拘束に対する判断時の「迷い」 (daigakuinkyoyu51-C\_159-181.pdf)

768 実質課税主義の虚構性 (keieironshu59\_043-057.pdf)

新着アイテム

ホーム  
お知らせ  
about  
掲載雑誌一覧

登録について  
コンテンツの登録は随時承っております。  
ご希望の方はお気軽にお問い合わせください。  
・個別登録のご案内 Excel版  
・一括登録のご案内 Word版  
・東洋大学学術情報リポジリ規程  
・投稿規程に掲載すべき著作権に関する事項

関連リンク  
・東洋大学研究者情報データベース  
・東洋大学附属図書館  
・CINI Articles 日本の論文を探す  
・JAIRO:リポジリ掲載検索  
・学協会著作権ポータルデータベース

リポジリについてのお問い合わせ  
【東洋大学学術情報リポジリ担当】  
東洋大学附属図書館  
Tel: 03-3945-7322  
Fax: 03-3945-7332  
E-mail: mlrepo@toyo.jp  
Address: 〒112-8606  
東京都文京区白山5-28-20

JAIRO Japanese Institutional Repositories Online

概要	
正式公開	2012年10月4日
コンテンツ数	約6,000件
紀要冊数	約45タイトルを 継続して公開
担当者	職員2名 派遣社員1名 アルバイト1名

全員、雑誌業務と兼務しています

紀要冊数約45タイトル掲載に至るまで

---

専任教員1人1人に行った調査がきっかけ

# 本日の事例報告で取り上げる内容

---

- (1) 東洋大学での業務プロセス
- (2) 皆様へオススメしたいこと

# なぜ業務プロセスを報告をするのか？

---



←着任当時の心理状況

手探り状態でスタートし、  
とにかく困ったから。



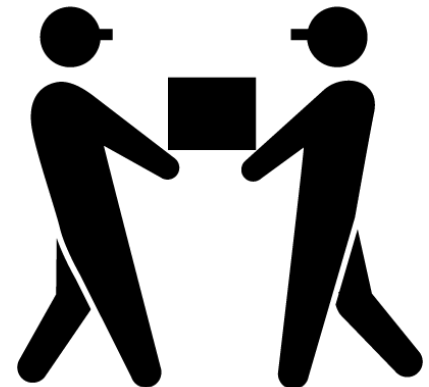
本学の業務プロセスと工夫点をご紹介します。  
皆様のリポジトリ業務遂行の一助になれば幸いです。

# ご紹介の前に

---

- 2人で1冊(1本)を掲載します。
- 一括登録ツールは、使用していません。
- メタデータ自動取得機能は使っていません。
- 紀要類の発行・編集業務は、図書館では行っていません。

チームリポジトリの合言葉「Juntos ! (いっしょに)」



# 業務プロセスの工夫

---

工夫点
Wチェックを行う
発行主体部署に 掲載報告



効果
?
?

# 2つの工夫を導入するに至った 失敗経験があります

2016年度だけでも本当に色々ありました…



## 失敗

- 紀要論文を異なるアイテムタイプで掲載
- サンプル「東洋太郎」をうっかり公開
- 論文タイトル・著者名等の入力ミス



Wチェック体制を導入



## 効果

ミスの防止

## 従来

- PDFデータ提供の御礼のみ



発行主体部署への掲載報告を開始



## 効果

- 改善点の指摘有
- 誉めてもらえることも…！

# 業務プロセス(1)

---

作業者  
AorB

冊子(論文の中身)を確認しながら、  
PDFデータを論文ごとに分割する



作業者  
AorB

所定のバックアップフォルダに保存



作業者  
A

JAIRO Cloud上で、インデックスツリーを追加する  
掲載作業を行う

# 業務プロセス(2)

---

作業者  
A

掲載した巻号のインデックスツリーを非公開にしておく  
サイボウズ Liveで報告する



作業者  
B

冊子と照合し、確認する  
インデックスツリーを公開する  
サイボウズ Liveで報告する

Wチェックを行う



作業者  
B

図書館システムに入力する



# 業務プロセス(3)

職員

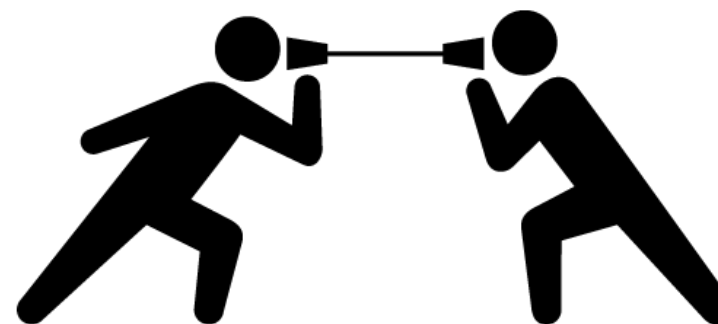
発行主体部署あるいは紀要担当教員へ  
リポジトリに掲載した旨を報告する

発行主体部署への報告

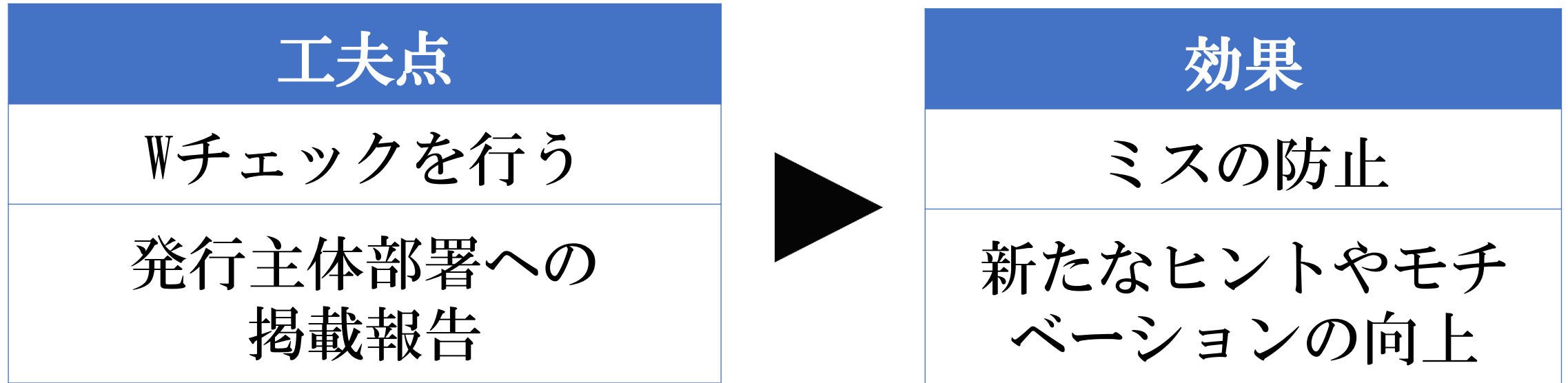
---作業完了---

公開したから、よかったら見てみてね！

了解～



# 業務プロセスの工夫(まとめ)



現在、手探り状態は脱しました。

# 本日の事例報告で取り上げる内容

---

- (1) 東洋大学での業務プロセス
- (2) 皆様へオススメしたいこと

# 皆様へオススメしたいこと

---

## 自機関の大きな「動き」を掴む

本学は、二度チャンスを逃しています。

# 1回目 研究者情報DBとresearchmapとの連携が開始した時

---

researchmap上で、学術成果が登録されると  
研究者情報DB連携時に通知が来る  
さらに、その情報がリポジトリ担当者にも通知される

…という仕組みの働きかけができていたら

▶ 紀要以外の掲載数が増えていたかもしれない

## 2回目 「教員活動評価」の導入が決定した時

---

researchmapを更新すると加点とあるように  
リポジトリに掲載すると加点

…という評価項目を入れる働きかけができていたら

▶ 紀要以外の掲載数が増えていたかもしれない

# なぜ、「動き」をつかむことができなかったのか？

---

(1)リポジトリを知ってもらおう努力が足りなかった

(2)情報を流してもらおう姿勢が足りなかった

▶ **職員**にも、リポジトリを知ってもらおうことが、  
リポジトリ発展の隠れたきっかけとなるかもしれません。

# 皆様へオススメしたいこと(まとめ)

---

## 自機関の「動き」をつかみましょう

▶ リポジトリ発展のチャンスが隠れているかも！

大きな波に乗ろう~





本日、お伝えしたかったこと

---

業務プロセスをご紹介しました

▶ 少しでも参考になれば幸いです

自機関の「動き」をつかみましよう

▶ リポジトリ発展のチャンスがあるかもしれません

# 今後の展望(個人的)

---

学内の成果物のコレクションを目指したい

(1)自キャンパス以外の紀要類の発掘

▶ 関連部署からの情報収集

(2)附置研究所の紀要以外のコンテンツの掲載

▶ 研究所へのさらなる打診の検討

# さいごに-勇気づけられた言葉

---

悩んでいたときに、ある教員からもらいました

40年前の紀要をデータ化して、掲載できるのは  
組織での対応があってこそ、できることだよね。

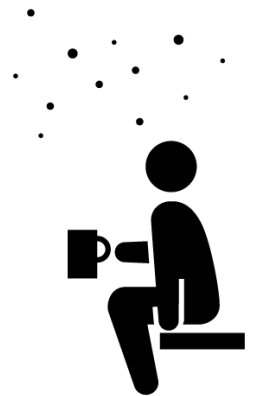
紀要のコレクションを目指したら？

それこそ、リポジトリにしかできないことでしょ？

リポジトリにしかできないことがきつとあるはず。

# ご清聴ありがとうございました

これからも必要としているどこかの誰かのために…



東洋大学

哲学とともに130年

130 years with philosophical mind